

# 大矢繁夫名誉教授記念号の刊行にあたって

学長 和田 健 夫

大矢繁夫先生は、1972年に本学商学部経済学科をご卒業後、東北大学大学院経済学研究科で学び、東北大学経済学部助手、西南学院大学商学部教授を経て、1995年4月に教授として本学に赴任されました。赴任後、1997年4月から1年間商学科長を努められた後、2004年4月から退職される2016年3月まで、大学院商学研究科現代商学専攻長（2004年4月～2008年3月）及び理事・副学長（2008年4月～2016年3月）の職にあり、法人化以降の多難な時期にあって大学運営にご尽力されました。教育担当理事・副学長時代（2008年4月～2014年3月）は、私とともに学長を補佐し、私が学長に就任した後は、総務担当理事・副学長・附属図書館長（2014年4月～2016年3月）として助けて頂きました。在職21年のうち実に半分以上の期間(12年)管理職を歩まれたこととなります。

大矢先生と一緒に理事・副学長を努めるなかで強く印象に残っているのは、先生の学生に接する態度です。在任中学生間のトラブル、不祥事は耐えることなく、教育担当理事・副学長であった先生は、責任者としてその処理にあたられました。学生を信頼し、深い愛情を持って対応する姿を今でも思い出します。「商大の歴史と伝統に思いを馳せ、商大生の誇りを持って生きよ」というのが先生の口癖でした。

大矢先生の専攻分野は、銀行論・金融論です。とりわけ、戦前・戦後におけるドイツの金融システムの研究は、先生の生涯のテーマであり、5度にわたる科学研究費補助金による研究のほか、数多くの論文（たとえば、「ドイツの銀行の証券信用業務」酒井和夫・西村閑也編著『比較金融史研究』、1992年所収、「ドイツ金融システムの変貌とリスク管理」三田商学研究、2007年など）を発

表されています。その成果をまとめた著書『ドイツ・ユニバーサルバンキングの展開』2001年により、東北大学から博士（経済学）の学位を取得されました。先生はまた、わが国の銀行制度にも造詣が深く、西日本金融制度研究会編『西日本銀行五十年史』1995年、北海道銀行編『北海道銀行六十年史』2011年の執筆にも関わられました。

教育の面では、大矢先生は、学部では、「銀行論」、「社会と金融」の講義と「研究指導」を、大学院では、「銀行論」（経営管理専攻）、「現代商学Ⅰ」、「金融システム論」（現代商学専攻前期課程）、「現代金融システム特論」（同後期課程）を担当されました。大学院では9人（前期課程8人、後期課程1人）の学生が先生の指導を受けました。学部の研究指導（ゼミナール）のテーマは、「銀行、マネーシステム、金融システムに関する基礎的研究及び最近の諸問題の解明」でした。ゼミの様子については、学生の証言があります（「大矢繁夫ゼミナール」小樽商科大学同窓会誌「緑丘」113号92～99頁）。そこからは、穏やかで優しい先生の熱のこもった指導と対外的な活動（ゼミ合宿、ゼミナール大会への参加、他大学のゼミとの交流）のもとで、彼らが自ら学び成長する姿が覗えます。15年間で162名の学生が育っていきました。

2016年1月28日、大矢先生の最終講義が行われました。テーマは「銀行の『強み・弱み』 - 講義で伝えなかったこと」でした。先生は、満場の学生の前で、銀行というインフラの有用性と矛盾を指摘され、それは、長い研究に裏打ちされた最後のメッセージにふさわしいものでした。

退職される時、先生は、学窓に戻れることを大変喜んでおられました。もう一度、色々なことを勉強し直したいとの希望も語られました。

長きにわたる本学へのご貢献に改めて感謝申し上げるとともに、一層のご活躍を祈念しております。